

1 単元 みんなの場所を みんなで守る ～みんなが つかう まちの しせつ～

2 指導の立場

＜子どもの実態から＞

子どもは、第2学年「まちを たんけん 大はっけん」において、地域の場所やそこで生活している人々と関わる活動を経験している。そこでは、地域にあるものやそこで生活している人々に着目しながら、地域と自分の生活との関わりを捉えてきた。このような子どもが、身の回りにある公共物や公共施設の利用することにおいて、公共施設のよさや働きについて表現し、表現するまでの過程を振り返る活動に取り組めば、公共の意識をより一層高め、自分自身の力でよりよい生活をつくり出していく態度を身に付けていくことができるだろう。

そこで、単元を構想するにあたっては、次のような題材を設定する。

＜本題材について＞

本題材は、本校の近隣に位置する室積コミュニティセンターに関する課題を設定することで、公共施設を身近に感じ、その社会的役割について捉えることができる題材となっている。ここでは、公共施設のよさや働きについて分かったことを身の回りの人々へ伝えながら、それらを大切にし、実生活において正しく利用できるようにすることが重要である。そこで、公共施設のよさや働きについて気付いたことを整理し、身近な人々へ表現する活動を設定する。子どもは、収集した情報の中から内容を選択し、どう相手へ伝えるかを話し合いながら、自分にとっても、相手にとっても、気持ちよく利用する方法について考え、自分の生活に生かそうとしていくだろう。

そのような学びを実現するために、指導にあたっては、次の点に留意する。

＜指導上の留意点＞

- 単元の初めには、公共施設がどのような場所か、室積コミュニティセンターを見学したり、調べたりしながら自らさぐる活動を設定する。そうすることで、公共施設に関する自分なりの捉えをもつことができるようにする。
- 単元の半ばには、自分たちが捉えた公共施設のよさや働きから、公共施設が存在する目的について話し合う場を設定する。そうすることで、公共施設の役割について興味をもち、再度訪問して確かめたいという思いや願いをもつことができるようにする。
- 単元の終わりには、公共施設に関する捉えの過去と現在を比較し、単元を通した学びの過程を振り返る場を設定する。そうすることで、自分の成長を実感するとともに、身近にある様々な公共施設に関心をもち、大切に利用しようとする思いをもつことができるようにする。

3 目標

公共施設を利用したりそこで働いている人々の話を聞いたりする活動を通して、公共施設の役割や機能を捉えたり管理者の願いを想像したりすることができ、身の回りのみんなで使うものやそれらを支えている人々が自分たちの生活を豊かにしていることに気付くとともに、それらを大切にし、安全に気を付けて正しく利用しようとする。

4 指導計画（総時数 12 時間）

次	学習活動・学習内容	単元の指導上の留意点
一 ③	○ 公共施設について知っていることを伝え合う。 ・公共施設にあるもの ・公共施設でできること ○ 室積コミュニティセンターを訪問する。 ・施設内にあるもの ・施設で活動している人の様子 ○ 施設見学を通しての気づきを交流する。 ・施設内の様子への気づきや疑問	○ 室積コミュニティセンターの広報誌に掲載されている施設の活動や、施設で働く人々の取組について交流する場を設定する。そうすることで、施設の活動の様子を具体的に想像し、施設の活動に興味をもつことができるようにする。
二 ⑦ 本 時 4 ／ 7	○ 再度室積コミュニティセンターを訪問する。 ・施設で行っている活動の理由 ・施設の方の思い ● 訪問で分かったことを表現する。 ・施設について伝えたいこと ・伝えたい内容の表現方法 ○ 表現活動を通して、分かったことを伝え合う。 ・施設のよさ ・施設を利用する上で気を付けること	○ 自分たちが捉えた公共施設のよさや働きから、公共施設が存在する目的について話し合う場を設定する。そうすることで、公共施設の役割について興味をもち、再度訪問して確かめたいという思いや願いをもつことができるようにする。
三 ②	○ 公共施設がどのような場所かを振り返る。 ・施設の役割 ・施設で働く人や施設に関わっている人の存在 ・施設と自分たちとの関わり ○ 身の回りの公共物や公共施設と、その使い方について話し合う。 ・身の回りの公共物や公共施設 ・公共施設を支えてくれている人々	○ 公共施設に関する捉えの過去と現在を比較し、単元を通じた学びの過程を振り返る場を設定する。そうすることで、自分の成長を実感するとともに、身近にある様々な公共施設に関心をもち、大切に利用しようとする思いをもつことができるようにする。

5 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①公共施設には、多くの人が利用しやすい工夫があることに気付いている。 ②公共施設を気持ちよく利用するために、ルールやマナーがあると気付いている。 ③公共施設やそこで働いている人々が、生活を支えていることに気付いている。	①公共施設の役割や機能を考え、施設を利用したり話を聞いたりしている。 ②公共施設の役割や機能を捉え、身近な人々に伝える方法や内容を選んでいる。 ③様々な公共施設の社会的役割を比べ、共通点や相違点を見付けている。	①公共施設に興味をもち、施設について調べたり話を聞いたりしている。 ②よりよい公共施設の利用のために、出来事を進んで伝えようとしている。 ③自分の身の回りにある公共施設に関心をもち、大切に利用しようとしている。

6 本時案 ー第二次・4時分ー

(1) 主眼 室積コミュニティセンターについて身の周りの人々に伝えたいことを話し合う活動を通して、公共施設の役割や機能を捉えたり、相手のことを想像して伝え方を決めたりすることができる。

(2) 準備 ワークシート、電子黒板、写真

(3) 学習の展開

学習活動・内容	予想される子どもの反応	指導上の留意点	分
1 室積コミュニティセンターを訪問して、どんなことが分かったのかを交流する ・公共施設の役割や機能 ・施設で働いている人々の取組	ア いろいろなイベントがあるとは知らなかったよ イ 施設の人たちが、全ての準備や計画しているなんて、すごいね ウ このことを知らない友達や家族にも、伝えたいな	・ 訪問で感じたことやその理由を伝え合い、公共施設への思いを共有する場を設定する。そうすることで、身近な人々へも伝えたいという思いや願いを膨らませることができるようにする。	5
2 室積コミュニティセンターについて、誰に伝えたいかを交流する ・施設について伝えたい相手	ア 友達に伝えて、「コミュニティセンターに行ってみたい」と思ってほしいよ イ コミュニティセンターへ行って、得することやできることを知らせたいのではないかな	・ 伝えたい相手に期待する反応や言葉について交流する場を設定する。そうすることで、その反応や言葉をもとに、伝えたいことへの見通しをもつことができるようにする。	15
3 室積コミュニティセンターについて、何を伝えたいかを交流する ・施設について伝えたいこと ・施設の方の思い ・公共施設のよさや正しい利用方法	ア 本を借りることができることを伝えたいな イ でも、本を汚して困っているらしいから、使う注意もいるのではないかな ウ 伝えることで、みんなが楽しく過ごせる場所になってほしいね	・ 伝えたいことに施設の方の話を関連して表示する。そうすることで、利用者だけではなく管理者にも視点を移しながら公共施設の社会的な役割を捉え、公共の意識をもち始めることができるようにする。	35
4 室積コミュニティセンターはどんな施設であつたかを振り返る ・施設の社会的な役割 ・施設を利用するよさ	ア 施設で過ごす人たちも施設で働く人たちも、みんな楽しく使っていきたいという思いは同じだったね イ わたしたちがみんなに伝えることで、どちらも笑顔になってほしいな	・ 子どもが授業の初めに感じた思いや願いと、施設の方の思いを比較する場を設定する。そうすることで、両者の思いをつなげられる自分たちの表現活動に、価値を見出すことができるようにする。	45

(4) 評価規準と方法

公共施設について身の周りの人々に伝えたいことを話し合う活動を通して、公共施設の役割や機能を捉えたり、相手のことを想像して伝え方を決めたりすることができたか、発言やワークシートからみとる。

<メモ>